



着物と女袴の制作に関わった平舘高家政科学科の生徒たち

平舘高の技で女袴再現

近代女学生装束完成披露・引き渡し式

県立博物館より制作を依頼されていた近代女学生の装束が完成し2月14日、同校で引き渡し式が開催されました。式では、同博物館の高橋廣至館長が感謝状を贈呈。生徒代表であいさつした佐藤滉也さん(3年)は「冬休み中も制作に当たり大変だったが、3年間の集大成として女袴を完成させることができ、よい経験ができた」と達成感に溢れた表情で話しました。

作品は4月29日(土・祝)と30日(日)、同博物館のイベント「明治気分で大変身!」で一般公開を開始します。

大更駅舎に別れを告げ

開業から94年大更駅舎最後の営業

JR大更駅の駅舎が2月6日朝、現駅舎として最後の営業を終えました。当日は、地域住民の長年の利用に感謝し、駅員が横断幕を掲げて、乗降客へ紅白餅を振る舞いました。大更駅の出石貞浩駅長は「多くの住民の通勤・通学を見守ってきた駅舎がなくなるのは寂しいが、新駅舎ができるのを楽しみに待っていてほしい」と、感慨深くも将来に期待を込めました。

今後は数十m南側の仮駅舎で営業を続け、新駅舎の完成は来年3月を予定しています。



感謝を記した横断幕を掲げて利用客を送る駅員



八幡平市の産業と観光について発表する2学年の生徒たち

市の明るい未来実現へ

「農と輝の学習」市長と語る会

「農と輝の学習」市長と語る会が1月30日、松尾中学校で開催されました。

1学年は農業体験から「農」について、2学年は職業体験から産業・観光の「輝」について発表。3学年は「八幡平の未来を明るくするプロジェクト」と題し、市が抱える課題とその解決策を提案しました。

田村正彦市長は「この学習で得た貴重な経験を大切に、これからの八幡平市のために生かしてほしい」と、生徒たちに期待を寄せました。

自然の芸術圧巻の氷瀑

自然観察会〜七滝氷瀑ツアー〜

自然観察会〜七滝氷瀑ツアー〜が2月19日、県民の森フォレストiを発着点に開催されました。

当日は市内外から26人が参加。スノーシューを装着した参加者は、ボランティアガイドの先導で岩手山登山道七滝コースの雪景色を楽しみながら片道約3.6kmを歩き、七滝を目指しました。落差約25m、薄青色の幻想的かつ大迫力の氷瀑を目の前に、感動の声を上げる人や記念撮影をする人など、参加者は思い思いに七滝周辺の散策を満喫しました。



雄大な七滝の氷瀑に見入り周辺を散策するツアー参加者



震災時の経験談から減災について意見を交わす参加者

災害に備え意見交流を

大槌&安代交流会

大槌&安代交流会が2月23、24の両日、荒屋コミュニティセンターで開催されました。

同交流会は、安代未来を拓く女性会議と大槌町食生活改善推進員連絡協議会の共催で35人が参加。東日本大震災の経験を下に、自然災害に備え、支援する側される側の心構えや動き方など、双方の意見を交わしていました。参加者の北口ハマ子さん(63)＝浅沢第1＝は「被災地での生活における生の声が聞けた。得た知識を災害の備えに生かしたい」と、感想を述べました。

雪上を走り滑って笑顔

ゆきフェスティバル2017スノー駅伝

スノー駅伝が2月18日、八幡平リゾートパノラマスキー場で開催され、26チーム91名が参加しました。

駅伝は、1周約800m(中学生以下は約400m)の起伏あるコースを、たすきの代わりにソリをつないで周回数を競う60分耐久レース。コース上には逆転可能(!?)なソリ滑走エリアも設けられていました。

幅広い年齢層が参加する中、最年少で参加した山内悠斗君(3)は「3周も走れたし、ソリがとても速くて楽しかった」と笑顔で話しました。



「よいい、ドン」の合図で一斉にスタートする参加者

すなっぶギャラリー



雪原犬ぞりレース大会「2017マッシャーズチャンピオンシップin岩手山」(1月28・29日、上坊牧野)



震災復興スポーツ交流会八幡平CUP硬式テニス大会(2月12日、アリーナまつお)



日本財団より福祉車両が寄贈されました(2月24日、就労継続支援B型事業所ワークサポート連華)



紙袋ランタンの明かりを楽しむ住民たち(2月4日、上関ナイトイン紙袋ランタンフェスティバル)



ヘリ救助など、八搜隊と岩手警察署が合同で厳冬季訓練を行いました(2月25・26日、岩手山)